

## ペテロ第一の手紙1章3-5節 「救いの恵み」

### 1A 生ける望み 3

1B 神の大きな憐れみ

2B イエス・キリストのよみがえり

3B 新生

### 2A 資産の受け取り 4

1B 天の蓄え

2B 不朽

### 3A 終わりの日の救い 5

1B 御力による守り

2B 信仰

3B 現れ

## 本文

ペテロの第一の手紙を開いてください。私たちは、今日からペテロの手紙に入っていきます。午後に1章を一節ずつ見ていきますが、今朝は3節から5節に注目します。「<sup>3</sup>私たちの主イエス・キリストの父である神がほめたたえられますように。神は、ご自分の大きなあわれみのゆえに、イエス・キリストが死者の中からよみがえられたことによって、私たちを新しく生まれさせ、生ける望みを持たせてくださいました。<sup>4</sup> また、朽ちることも、汚れることも、消えて行くこともない資産を受け継ぐようにしてくださいました。これらは、あなたがたのために天に蓄えられています。<sup>5</sup> あなたがたは、信仰により、神の御力によって守られており、終わりの時に現されるように用意されている救いをいただくのです。」

ペテロの第一の手紙全体を読みますと、すぐに分かるのは、テーマが、ヘブル人への手紙やヤコブの手紙と似ていることです。それは、キリスト者が苦しみを受け、迫害を受けるということです。けれども、それぞれの著者に、同じテーマでありながらも、語っている強調点が少しずつ違います。ペテロ自身は、大いなる救いの恵みから語ります。神の恵みによる救いがある、それで、キリストを模範として歩んでいくということを話していきます。

一昨日、未信者の方から連絡がありました。「まだ天国に行っていない間は、クリスチャンは我慢するんですか？」という質問です。「我慢ではなくて、忍耐するんです」と言いました。「どう違うんですかね？」と言われたので、とっさに思い浮かんだ例えを語りました。「家に留守にっていて、お父さんがいないので、不安になっています。でも、お父さんが必ず家に戻って来ることを、知っています。戻って来ることを信じて、待っている、という感じです。」お父さんという、自分を愛してくれて

いる存在を知っていて、今の不安に、信仰をもって打ち勝つことができるんですね。自分でがんばって、苦しみに耐えるのではなく、神の深い慈愛があって、それに信頼します。

### 1A 生ける望み 3

<sup>3</sup> 私たちの主イエス・キリストの父である神がほめたたえられますように。神は、ご自分の大きなあわれみのゆえに、イエス・キリストが死者の中からよみがえられたことによって、私たちを新しく生まれさせ、生ける望みを持たせてくださいました。

主が、私たちに与えてくださったのは、「生ける望み」です。私たちは、この地上で死んで、滅んでいくのではありません。死んでも、また生きる希望です。永遠のいのちの希望です。だから、今、この地上に生きているのも意味があります。目的があります。神の願われていること、みこころを行うことが、自分の生きている意味なのだとなります。

### 1B 神の大きな憐れみ

私たちには、望みがありませんでした。パウロが、エペソの信者たちに、以前の彼らの姿について、こう説明しました。「エペ 2:12 そのころは、キリストから遠く離れ、イスラエルの民から除外され、約束の契約については他国人で、この世にあって望みもなく、神もない者たちでした。」イスラエルの神や、キリストから、遠くに離れていました。この世にあって望みがなく、神もありません。そして、罪と背きの中に死んでいました。「2:1-2 さて、あなたがたは自分の背きと罪の中に死んでいた者であり、かつては、それらの罪の中にあってこの世の流れに従い、空中の權威を持つ支配者、すなわち、不従順の子らの中に今も働いている霊に従って歩んでいました。」

もし私が神だったら、この時点で、「もうだめだな」として、あきらめると思います。まず、自分から遠く離れた存在に、関心を寄せるでしょうか？自分の身近な人でさえ、関心が薄いのに、遠く離れていたら、全く気に留めません。しかも、罪と死の中で死んでいるのです。インドのガンジス川には、遺体が流れていることがあるそうですが、そのような遺体に、私たちが何か希望を寄せることはあるでしょうか？しかも、遠くにある死体に？エペソ 2 章では、私たちの以前の姿は、このようなものであったと説明しているのです。

しかし、「神は、ご自分の大きなあわれみのゆえ」と言っています。神は、そのご性質に憐れみがあります。主がご自分の名をモーセに示した時に、「主、主は、あわれみ深く、情け深い神」と宣言されました(出エ 33:6)。主は、私とは違って、どんなに無関係に見え、疎外されているような人にも、罪の中で死んでしまっている人にも、いや、そのような惨めな状況だからこそ、大きな憐れみを示して下さるのです。

キリスト者にとっては、当たり前というか、ごく自然にできるのが、憐れみの行いです。地震や洪

水、津波などの被災地でいつまでも残っている人々は、キリスト者たちです。そして、凶悪な犯罪を犯した人が拘置所や刑務所にいる時に、面会に行く人たちの多くも、キリスト者たちです。私は、自宅の近くに、拘置所があり、そこに死刑囚が収監されていますが、その三人にお菓子の差し入れをしています。差入店の方が教えてくださいますが、継続的に来る人々は、カトリックのシスターであったり、私のような牧師なのだそうです。それは、神の大きな憐れみを受けているからに他なりません。自分が惨めで、どうしようもないのに、救ってくださったのか知っているからです。

## 2B イエス・キリストのよみがえり

その大きな憐れみのゆえに、生ける望みをくださいましたが、そのいのちは、イエス・キリストのよみがえりから来ています。「**イエス・キリストが死者の中からよみがえられたことによって**」とあります。イエスが死んだのに、よみがえってくださったから、私たちが罪の中で死んでいても、新たないのちを得ることができています。そして、主が永遠に生きておられるように、私たちも永遠に生きるようにしてくださいました。イエス様は、「わたしが生き、あなたがたも生きることになるからです。」と言われました(ヨハネ 14:19)。今、神に対して生きることができます。そして、将来、復活のからだを与えられて、永遠に生きることができます。

この手紙をペテロが書いているのを知ると、これが非常に心にしみてきます。彼は、死ぬまでイエス様にお供しますと強く主張しましたが、何時間も経たないうちに、三度、イエスなど知らないと言いました。しかし、ペテロは十二弟子の中で、イエス様の復活の噂を聞いた時、いち早く、墓を見に行った人です。「ルカ 24:11-12 この話はたわごとのように思えたので、使徒たちは彼女たちを信じなかった。しかしペテロは立ち上がり、走って墓に行った。そして、かがんでのぞき込むと、亜麻布だけが見えた。それで、この出来事に驚きながら自分のところに帰った。」そしてガリラヤ湖で、イエスに会うために待っていた時に、漁をしていました。岸辺で声をかけ、舟の右側に網を降ろしなさいという人がいるので、網を降ろしたら、大漁になりました。ヨハネが、「主だ」と叫びます。するとペテロは、そのまま海に飛び込んで、泳いで岸辺にいったのです。復活のイエス様に出会えたことが、彼にとってどれほど希望になったことでしょうか！

主が生きておられるということで、彼自身が生き返りました。生ける希望に満ちました。そして、ペテロは後に、皇帝ネロによって殉教します。その時は、言い伝えではありますが、イエスのように死ぬに値しない者だとして、死刑の執行者に逆さ磔にしてくれと頼み、死んだのです。

## 3B 新生

そして、イエス・キリストのよみがえりによって、「**私たちを新しく生まれさせ**」とあります。これは、新しい創造です。「Ⅱコリ 5:17 ですから、だれでもキリストのうちにあるなら、その人は新しく造られた者です。古いものは過ぎ去って、見よ、すべてが新しくなりました。」アダムが罪を犯して、人は罪人として生まれ、死にます。そしてこの地は呪われたものとなりました。しかし、イエス・キリス

トのよみがえりによって、その罪と死の原理が、義といのちの原理に敗北しました。この方のよみがえりによって、罪の中にいた者が新しく生まれ、義と認められます。そして、死んでもよみがえります。そして、この世界もまた、一新します。すべてが新しくなるのです。

## 2A 資産の受け取り 4

**4**また、朽ちることも、汚れることも、消えて行くこともない資産を受け継ぐようにしてくださいました。これらは、あなたがたのために天に蓄えられています。

### 1B 天の蓄え

新しく生まれたということは、神の子どもとなり、神の相続を受け継ぐことになっています。永遠のいのちという資産です。そして、その資産は、天に蓄えられているということです。パウロも、コロサイ1章5節で、「あなたがたのために天に蓄えられている望み」と言っています。ですから、この地上に生きている間、どんなことがあっても、それが損なわれることはないということです。

### 2B 不朽

イエス様が、天に宝を蓄えなさいと命じられた言葉がありますね。「マタ 6:20 自分のために、天に宝を蓄えなさい。そこでは虫やさびで傷物になることはなく、盗人が壁に穴を開けて盗むこともありません。」これが、ペテロがここで話している、天における蓄えのことです。地上において蓄えられるものは、朽ちます。そして、罪によって汚れていきます。それから、消えていきます。しかし、主が私たちのために蓄えているものは、全く影響を受けることはありません！

トルコに旅行に行った時に、ラオディキアの町の遺跡を訪問しました。そこに、ローマ皇帝に献げる宮があり、その宮の奥に保管所があるのを見ました。そこに、いろいろな人が金銀など、貴重品を預けるところになっています。なぜなら、神々を拝むところで盗みを働いたら、罰が当たると思われるからです。しかし、完全な保障はありません。事実、今は遺跡として発掘されましたが、そこに金銀は残されていませんでした。取られています。しかし、まことの神の宮は違います。この地上ではなく、天に、永遠のいのちという富を蓄えていてくださいます。だれも盗むことができません。その天は、目に見える天地が過ぎ去っても、なおのこと残っている、神の御座のある天です。

## 3A 終わりの日の救い 5

そして、主は終わりの日に、天に蓄えられた資産をもって、私たちの前に現れてくださいます。「**5**あなたがたは、信仰により、神の御力によって守られており、終わりの時に現されるように用意されている救いをいただくのです。」

### 1B 御力による守り

日本語訳では、あまりはっきりしていませんが、ギリシア語では、英語のように、「神の御力によ

って、信仰を通して守られており」と書かれています。つまり、私たちの信仰が、私たちを守っているのではなく、あくまでも神の御力によって私たちが守られているということです。信仰はあくまでも、その力が表れる手段にしか過ぎません。そして、ここの「守る」という言葉は、軍隊用語で、町の中にある守備隊のことを指します。私たちが、神の力によって、敵の手から守備隊を置いてくださっている、ということです。

## 2B 信仰

そして、信仰を通して守られています。これはちょうど、父親の手をつかんでいる、幼い子どものようです。子どもは、自分がしっかりと父の手をつかんでいるから、自分は迷子にならなくてすんでいると思っています。しかし、実際は、父が自分の子の手をしっかりとつかんでいるから、その子は父の手から離れてないのです。

イエス様は、ご自分を信じる者たちを、羊に例えて、こう語っておられます。「ヨハ 10:27-28 わたしの羊たちはわたしの声を聞き分けます。わたしもその羊たちを知っており、彼らはわたしについて来ます。わたしは彼らに永遠のいのちを与えます。彼らは永遠に、決して滅びることがなく、また、だれも彼らをわたしの手から奪い去りはしません。」イエス様の声に聴き従うのですが、それは信仰をもって、この方のことばを聞いているからです。けれども、あくまでも、主ご自身が私たちをご自分のものとしたからであり、主の手の中に私たちが入れられているからです。永遠に、滅びることがないように、私たちを守ってくださっているのです。

## 3B 現れ

そして、終わりの日には、「救い」が現れるのです。現れるというのが、大事な言葉です。これまでは、天に蓄えられていました。いわば、隠されてきました。その資産が、主が戻ってこられる時に現れるのです。主が天から降りて来てくださいます。私たちは、空中でこの方に会い、そして天に引き上げられます。その時に、この卑しい体は栄光のからだに変えられます。そして、主ご自身から、それぞれに褒美が与えられます。冠が与えられます。そして、私たちを引き連れて、主は地上に戻ってこられます。栄光と力を携えて、戻ってこられます。このようにして、私たちに救いを現し、そして世界に救いを現わされるのです。

聖書の最後の書物が、「黙示録」ですね。これが、まさに「現れ」を意味する言葉です。今まで、明らかにされていなかったものを、明らかにするということ。閉じられていたものが、開示されるということです。

このようにして、神の救いの始まりから終わりまで、神ご自身が私たちのために用意しておられます。この恵みがあるからこそ、私たちは信仰の従順によって生きることができるのです。